

平成30年度 掛川市子育て協働モデル事業 事例報告書

団体：掛川で子育てし隊！

企画：掛川で子育てしたい！おはなし会



1 ページ

- ・「保活おしゃべりサロン」
- ・「おはなし会 mini」
- ・「保育園入所状況おはなし会」

団体：原泉地区まちづくり協議会

企画：親子のスキンシップとコミュニケーションの向上



5 ページ

- ・防災ワークキャンプ
- ・書道教室
- ・幼保交流会

事 例 報 告 書

事 業 名	掛川で子育てしたい！おはなし会事業
団 体 名 代 表 者 名	掛川で子育てし隊！ 小林理香
団 体 の 概 要	掛川市の子どもを育てる家庭が安心して暮らせる環境づくりのため、行政と市民とを相互につなぎ、対話の場づくり、それらに関する情報収集及び発信を行う。
事 業 内 容	<p>①「保活おしゃべりサロン」 計 1 回 保育園入園を考えている親同士の情報交換や悩み事の共有を行った。当団体からは市HP掲載情報の案内等も実施。 ・ 8/20（月）つま恋※子育て応援Dayにて 参加者：9名</p> <p>②「おはなし会mini」 計 4 回 各テーマに沿ったゲストを招き現状を分かりやすく説明してもらった後、参加者同士の意見交換やワークショップを実施して理解を深めた。 ・ 7/19（木）「市議会議員と話そう！」 会場：徳育保健センター ゲスト：掛川市議会文教厚生委員会6名 参加者：19名 ・ 8/10（金）「保育士さんの1日って？」 会場：掛川市生涯学習センター ゲスト：掛川聖マリア保育園長岡本真理子氏 参加者：17名 ・ 8/25（土）「幼稚園預かり保育、小規模保育園について先輩ママに聞こう！」 会場：掛川市生涯学習センター ゲスト：小規模保育園に通わせる先輩ママ1名、 幼稚園に預けながら働く先輩ママ3名 参加者：26名 ・ 12/8（土）「パパ会～共働き共育てを考えよう～」 会場：たまりーな ゲスト：副市長 参加者：29名</p> <p>③「保育園入所状況おはなし会」 計 3 回 ・ 10/20（土）「保育園入園申込についてこども希望課長に聞いてみよう！」 会場：掛川市役所 説明：こども希望課長</p>

参加者：91名
 保育園入所希望者向けに選考方法や最新の入所待機人数等について市から説明いただき、質疑応答によって参加者の疑問を解消した。

・3/9（土）「2019保育園入所状況みんなでおはなし会」
 会場：掛川市生涯学習センター
 説明：掛川市こども政策課
 参加者：63名

2019年4月入所の応募状況、現時点での待機数等について市から説明いただき、その後参加者同士が“こんな掛川で子育てしたい！”をテーマに対話するワークショップを実施した。

8月25日（土）
 小規模保育、幼稚園預かり保育について先輩ママに聞こう！



12月8日（土）
 パパ会～共働き・共育てを考えよう！

事業の様子



3月9日（土）
 2019保育園入所状況おはなし会



事業成果

「市民と行政をつなぐ」という点においては、7/19の回で市議会文教厚生委員会の方々に子育て当事者の声を直接聞いてもらうことができた。また、10/20は保育園申請にあたって市民が行政から公式な説明を受けられる今までになかった機会を提供でき、参加者からの大量の質問にも子ども希望課長らに1つ1つ丁寧に回答いただいたことで、参加者アンケートでは「説明がわかりやすかった。参加してよかった」という声が多く挙げられた。10/20は大人だけで57名、3/9は55名という大変多くの参加者が集まったことは行政からの説明機会を強く求める市民の声が浮き彫りとなった形で、まさに協働モデル事業の目的である“これまで効果的な取り組みが薄かった分野を各団体の持つ力を生かして実施する子育て支援事業”となった。

加えて、10/20の質疑応答内容やその他情報を整理した「かけがわ保活Q&A」を当団体で作成し3/9のおはなし会で配布したこと、保活おしゃべりサロンで掛川市HPでの保育園申請に関するページの案内や自身の体験談を保活初心者で紹介できたことは、個人では得られにくい情報が強く求められている保活に関する情報を、行政側から市民へ橋渡しの役割として提供することができた。

「対話」という点においては、保活おしゃべりサロンはもちろん、おはなし会では毎回意見交換やワークショップの時間を取り入れ、参加者同士の対話を重視した催しを開催できた。特にパパ会では「他の参加者と意見交換をすることが新鮮でとてもよかった」という意見が多数だった。ただ各回のワークショップで「もっと時間がほしかった」といった意見も見られたため、参加者同士の対話の場自体が非常にニーズが高く価値のあることだと改めて把握することができた。

今後の展開

子の預け先に関する8/25, 10/20, 3/9のおはなし会は参加申込も多く、市民ニーズの高い説明や対話の機会を設けることができた。一方で保育士という職業への理解、パパの家庭参加といったテーマの回は集客に苦勞し、待機児童問題の背景にある様々な要素をいかに自分事として捉えその先の行動につなげてもらえるかといったアプローチは非常に難しいと感じた。

市職員との対話も目的の1つと考えて本事業に臨んだが、計画が遂行できないものがあった。中でも3/9の回では質問時間を十分に取れず「資料の説明よりも質疑応答に時間を割いてほしい」という声が多かった。我々市民が期待する内容をどこまで市とすり合わせられるか、市民団体と行政が協働事業を行うにあたっての課題であると感じた。

保育園待機児童、学童保育、父親の家事育児参加、親同士の仲間づくりや世代間交流、働き方、等々、掛川の子育て環境を考えるにあたって取り組みたいテーマは多岐にわたり、かつ全てが繋がっているため、市民活動の範囲でできることとのバランス、取捨選択が難しい。

本事業は希望の保育園に入園がかなわなかった人やこれから保活を考える人のみを対象と捉えられがちで、地域ぐるみで広く子育て環境について理解し皆で考えたいという我々の考えと周囲の認識にずれがある。

まずはワークショップ等で、こども希望部をはじめとした市職員にも参加を呼びかけ、市民と職員がお互いにフラットな立場で言葉を交わせる場を設けたい。また「協働」について考えを深め、市民団体と行政の各得意分野でより効果的な役割分担を検討できればありがたい。

子育て環境の実情を当事者だけでなく、地域へ少しずつ理解の輪を広げることで事業への協力者を増やし、マンパワーや会場確保の面においても補っていきたい。

事 例 報 告 書

事 業 名	親子のスキンシップとコミュニケーションの向上事業
団 体 名 代 表 者 名	原泉地区まちづくり協議会 会長 平出隆雄
団 体 連 絡 先	所 在 地：掛川市萩間423 電話番号：0537-25-2580
団 体 の 概 要	地区内住民や地区内でまちづくりを行う団体が共通目標のもと、連携・協力して、地域課題の解決等により、今より更に住みよい地区を目指したまちづくりを行う事を目的とする。
事 業 内 容	<p>①防災ワークキャンプ 期 日：8月25、26日 場 所：さくら咲く学校体育館周辺 参加者：大人15名、子供15名 非常時の想定訓練を実施。 ダンボールや避難地にある食材等での炊事体験等 身を守る ターザンロープによる体感を感じる</p> <p>②書道教室 期 日：2018年12月25日、2019年1月6・13日 場 所：さくら咲く学校 参加者：52人（延べ人数） 小学生低学年以下は筆の使い方、上級生は書初めの課題を作成した。3回目は2019年度カレンダーに筆を入れて自作のカレンダーを作成した。</p> <p>③幼保交流会 期 日：2019年2月24日 場 所：さくら咲く学校ほか 小学校入学前の幼稚園児、保育園児にバスの乗車や友達と触れ合う事を目的に実施。 ふれあいによる交流はさくら咲く学校内で山下さんの指導の下、新聞紙やタオル、ボール等を使い、楽しくコミュニケーションを取ることができた。</p>

防災ワークキャンプ



事業の様子

書道教室



事業成果

①防災キャンプ

親子で実際の疑似体験を真剣に実施できた。2日目の火おこしなどは、自ら率先して体験していた。災害が身近で報告されていることから、親子で話し合い、コミュニケーションを図りながら防災知識の習得ができた。

②書道教室

地区内にあるさくら咲く学校で実施することもあり、筆を初めてもつ小学校低学年児や幼稚園児も参加して、家族とのふれあいをもちながらの教室となった。

	<p>③ 幼保交流会</p> <p>4月から西郷小学校へ路線バスで通う子どもたちが安心して通学できるよう、バスの乗車体験を実施した。また、別々に通っていた幼保園児同士がお友達になれるよう交流会を開催し、就学前の児童の不安解消やコミュニケーションの向上が図られた。</p> <p>全体を通して、原泉地区内の子どもたちの顔を合わせる場を提供したことで、放課後などさくら咲く学校に遊びに来てくれる子供が増えた。</p>
<p>今後の展開</p>	<p>地域が広く、子供達や親子で触れ合う機会が少ないことを実感した。</p> <p>多様性の時代で個々の活動を重点に置く家族もあり、個人を尊重したうえでの事業展開が大切である。また、地域のPTAで活動することへの期待も大きいことがわかった。</p> <p>PTAや子供達をまとめる役員が必要。また、企画の段階から運営までは、サポートする支援者が必要と考える。</p> <p>PTA役員は毎年更新され、PTA役員の意識が事業に影響するため、子育てに関する意識の醸成が必要。</p> <p>少しで良いが、活動予算の確保</p>